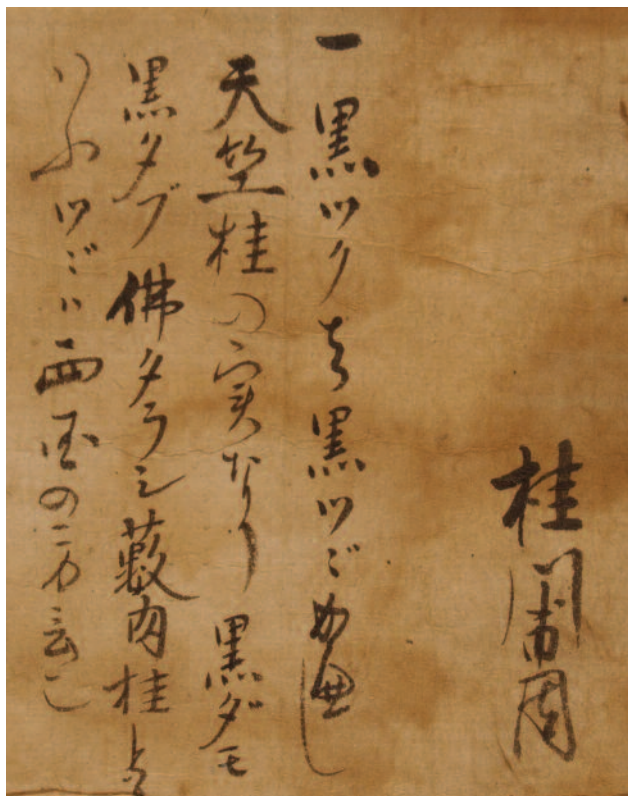
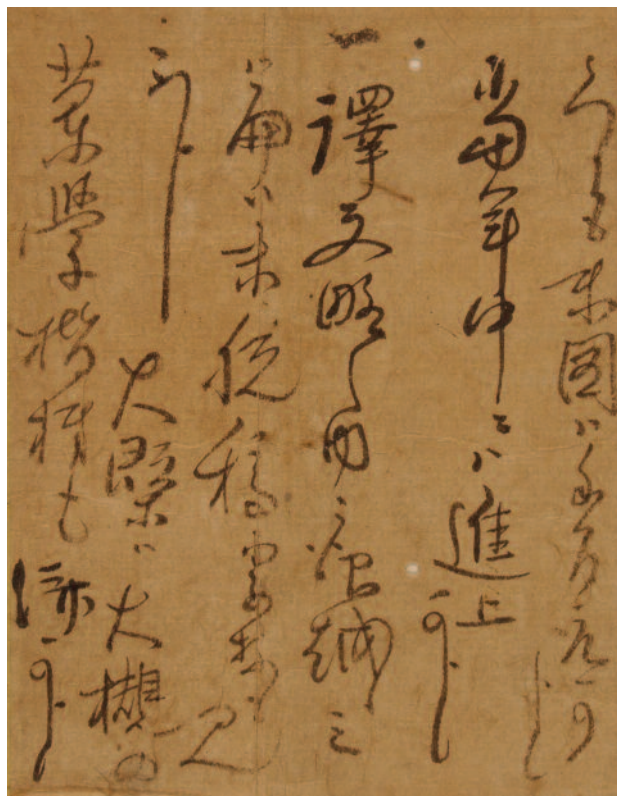


1. 杉田玄白漢詩二首ト桂川甫周書簡ノ合幅 小詩仙翁（杉田玄白）



1. 杉田玄白漢詩二首ト桂川甫周書簡ノ合幅



1. 杉田玄白漢詩二首ト桂川甫周書簡ノ合幅

二 長寄聞見録

海女 人魚

半身は女、下半は魚。
才牙は、魚の才、人魚。
骨は、魚の骨、人魚。
妙は、魚の妙、人魚。
知も、人魚の知、あり。



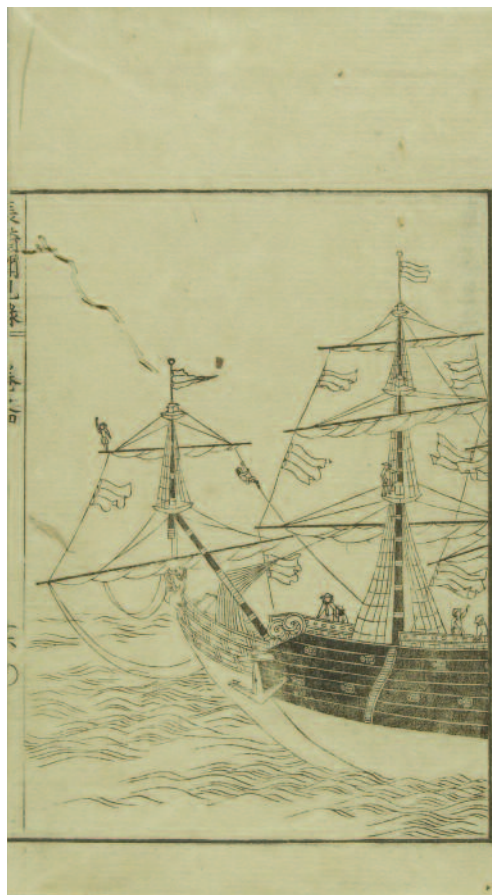
海人

全身は肉皮ありて下に露るる。袴を着るが似たり。その俗人狎ふを
どく豆餅めくあり。陸地のかかり、救ひあぐり死せざるものとて



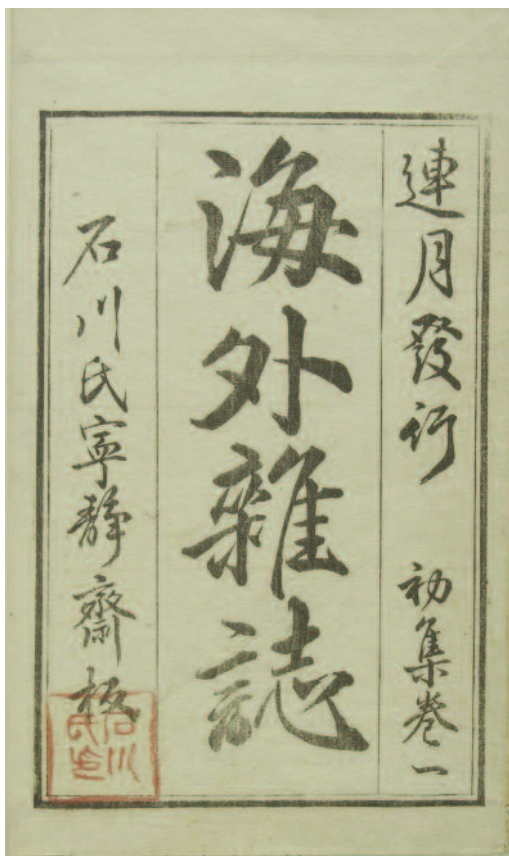
二
長崎聞見録







14. 英和字典



5.海外雜誌



一七
新撰御ひながた
(寛文刊)





一九 つほのいしふみ（元禄一一年刊）





三〇 麦生子祝賀集（仮題・喜多川歌麿編画）





三〇 麦生子祝賀集（仮題・喜多川歌麿編画）





三〇 麦生子祝賀集（仮題・喜多川歌麿編画）

親し人病母のく別まん
る結かふさ小傳る

廣定

おーと思ふ人ふ娘き玉の猪乳長くもつるを
紫月の十日余りの夜月ひいとやふふん（侍り
いさハ夢よさせ〜 移ひ乃心哉

眠りなれ人ふ繋り〜十の夜花咲雲の色どさうり
日

不立僧都

床よけ哉おとと内田もろあび〜れふは歌ふい〜る澄

倉部 杉 健

ふと病を食つて法やとてさういふのちうねの原は
草 角 丸

いふと病を食つて法やとてさういふのちうねの原は
鶴 堂 丸

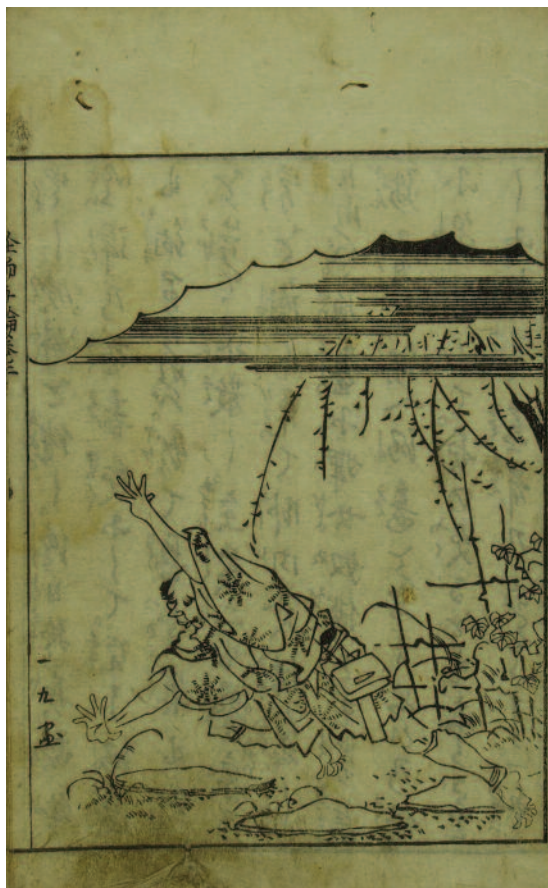
えけいふと病を食つて法やとてさういふのちうねの原は
一 富 士 二 鶴

本 腹 不 通 法 甚 重 也 法 甚 重 也 法 甚 重 也 法 甚 重 也
人 其 腹 不 通 法 甚 重 也 法 甚 重 也 法 甚 重 也 法 甚 重 也

いふと病を食つて法やとてさういふのちうねの原は
いふと病を食つて法やとてさういふのちうねの原は

二四 怪物輿論（十返舎一九編画）





二四 怪物輿論（十返舎一九編画）







59. 桃太郎一代ばなし



60.さるかにばなし

二七
末代
嚩語掃寄草紙



通神鳥

▲此通神鳥といふは名と姓と名とて人の縁成よりておのきか
はと申ふふ事、秋のふくふいど、紀伊の天照の懸るあり

▲其昔の事とて

▲其昔の事とて

▲其昔の事とて

▲其昔の事とて

▲其昔の事とて

▲其昔の事とて

▲其昔の事とて

▲其昔の事とて

▲其昔の事とて

▲其昔の事とて

▲其昔の事とて

▲其昔の事とて

▲其昔の事とて

▲あそ屋敷のあこの

▲あそ屋敷のあこの

▲あそ屋敷のあこの

▲あそ屋敷のあこの

▲あそ屋敷のあこの

▲あそ屋敷のあこの

▲あそ屋敷のあこの

▲あそ屋敷のあこの

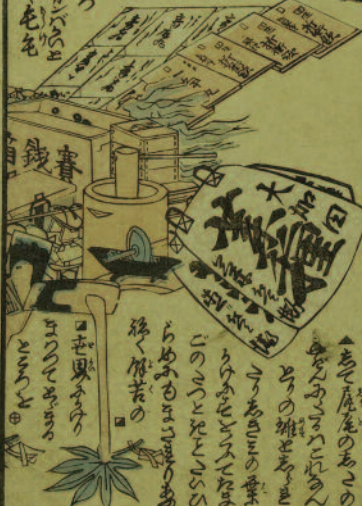
▲あそ屋敷のあこの

▲あそ屋敷のあこの

▲あそ屋敷のあこの

▲あそ屋敷のあこの

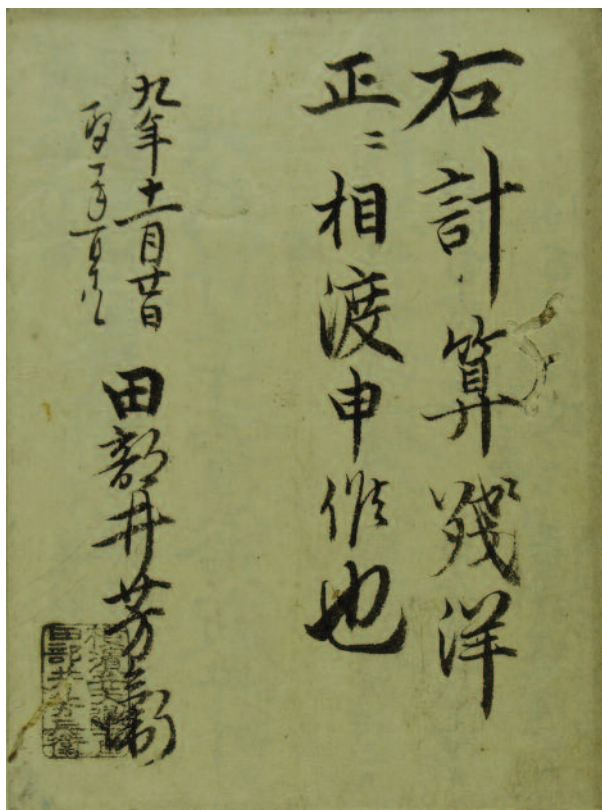
▲あそ屋敷のあこの







93. 荒木重平家ト横濱貿易商田部井家「京屋」資料



93. 荒木重平家卜横濱貿易商田部井家「京屋」資料

一 杉田玄白漢詩二首ト桂川甫周書簡ノ合幅

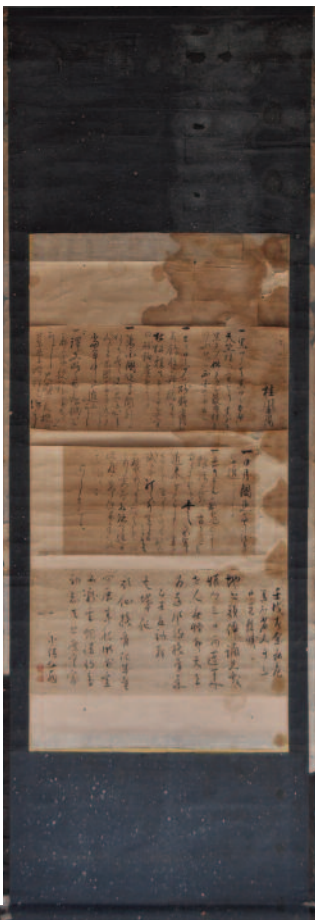
一幅五、〇〇〇、〇〇〇

―桂川甫周（國瑞）ト杉田玄白ノ新出資料。非常ニウブナタメ軸装ノ狀態ガ惡イガ兩筆ノ成立ニ近イ時代ノ表具ト推定デキルコトト、當代一流ノ蘭學者ノ組ミ合ワセデアルタメ一切手ヲ加エズ傳來ノママニ未補修トシタ。桂川甫周ノ書簡ノ宛名ハ不明デアル。書簡ニ見エル「萬國圖說專彫刻にかかりみて」（オソラク甫周自著ノ『新製地球萬國圖說』、前野良澤ノ『譯文略』（『和蘭譯文略』）、大槻玄澤ノ『蘭學楷梯』、「エレキテル製作」ノ項ノ「雜話」ハ甫周實弟ノ森島中良ノ『紅毛雜話』ト考エラレ、更ニ「シヨメール」（百科辭典）ノ記述ナド非常ニ興味深イ内容ヲ示シテイル。『萬國圖說』（天明六年二月序）ノ項ニ「當年中」トアリ、天明七年九月序ノ『紅毛雜話』ガ引用サレテイルノデ「當年中」ハ天明八年ノ可能性ガアリ、ダトスレバコノ書簡ハ天明八年三月廿七日付トナル。

一方、杉田玄白ノ漢詩ノ落款ハ「小詩仙翁」ト記サレ玄白ガ寛政一一年七月廿八日ニ立柱式ヲ行ツタ別宅「小詩仙堂」ニ因ンダ齋號ト考エラレル。第一首ニ「壬戌春余病危篤不省人事三日覺賦」トアリ享和二年春ノ作ト分カル。高弟ノ大槻玄澤ハ玄白ノ『形影夜話』ノ跋文デ「今春齡方古稀矣、偶會市陌塵垢侵犯襟袍、大有事干藥餌、小子茂質輩、夙夜看待、惴々焉、懷淵氷之懼、兩楹之夢、」ト記シテ今春古稀ヲムカエタ玄白ガ

瀕死ノ病ニカカッタコトヲ述ベテイル。ツマリ享和二年ノ春ニ玄白ガ危篤ヲ脱シタ心境ヲ詠ンダ漢詩デアル。第二首ハ「乙丑夏」スナワチ文化二年夏デアリ、同年六月廿二日、七三歳ノ玄白ハ藩邸カラ呼び出サレ廿三日ニ江戸城ヘ出頭シタトコロ、家業出精ニヨツテ、近々將軍家齊ノ拝謁ヲ賜ルコトニナツタト豫告サレタト云ウ。コノ漢詩ハ出頭直後ノ作ト考エラレ「大城」トハ江戸城ヲ指シテイルノデアロウ。玄白ハ二年後ノ文化四年ニ家督ヲ養子ノ伯玄ニ譲リ隠居シタ。コノ漢詩ハ玄白ガ將軍ニ拝謁シテ蘭方醫トシテ大事ヲ成シ遂ゲテ感ニ入ル老境ヲ詠ンダモノデ、玄白ノ秀逸ナル新資料トシテ注目サレルデアロウ。

一〇三頁参照



桂園周

一黒ツクも黒ツクも
天竺桂の葉なり黒ツクも
黒ツクも佛タラシ敷肉桂も
りわい西のるる
一セーローブ砂鉄産
み餘位の新極なり
杜松様でふくましの葉
の砂鉄と産なり
一萬小園説き聞刻
りくくはははははは
くも某園もふくま
るるなり進上
一譯文略しゆくは
一痛ふ末後なれども
一若葉は砂鉄なり

一日月園是なり

一王うん親虎の
教活ふ哉古きも
カキリキキキキ
近來キキキキ
試み河なり
一親虎なり
一かきかきかき
一かきかきかき
一かきかきかき

壬戌年余初虎
馬の名人ナニ
日定後賦

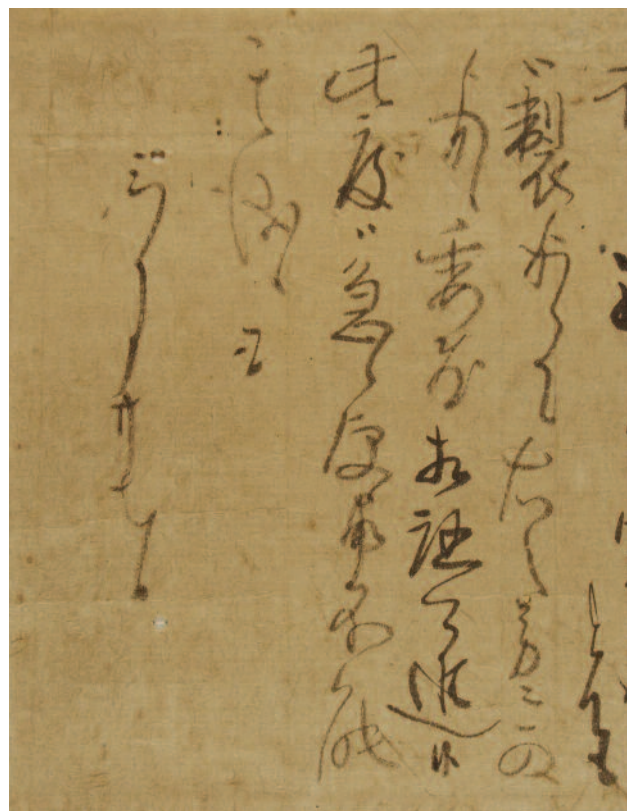
地は頑備諸人我
懐今三日向蓮甘
老人年怪命天玉
力在作後後青来
乙丑反初胎
大峰伝

永仙授育化筆毫
四唐生初初安
水新言初法初
初初と二度安宮

小清仙題

セーローブ、砂礫者、
水、節位の、砂礫者、
杜松、程々、子、ブ、ミ、サ、ミ、の、実
の、砂礫者、
一、萬、山、岡、迄、も、彫、刻、
か、く、せ、
は、た、る、心、事

一萬五國說を彫刻
し、其に泛たる心
を、東國の心と
爲す。進上
譯文略し、其に
其の末に、其の



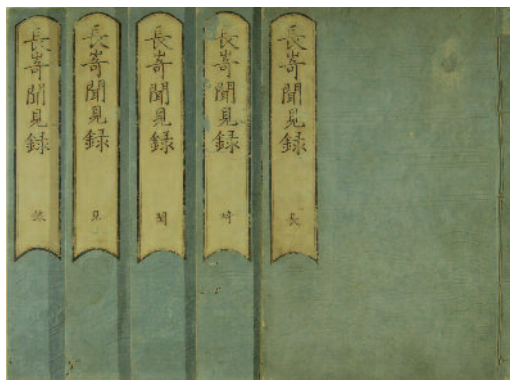
壬戌年余私危
馬乃名人之三
日是後賦
地之頑僊請久我
懷今之日向蓬萊

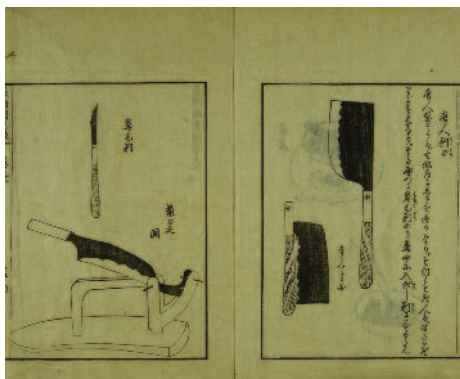
老人年怪而天
為道何所授者
乙丑夏初
大城化
仙授者化筆

二 長寄聞見録 五卷 筭 極美本 寛政一二年九月刊
 一 廣川獬著。極早印。卷四卜卷五二極僅力虫。

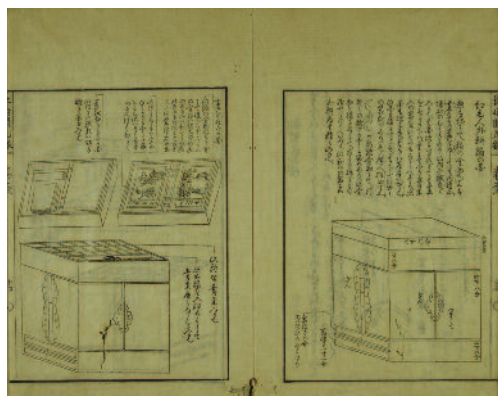
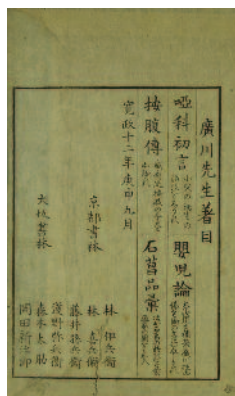
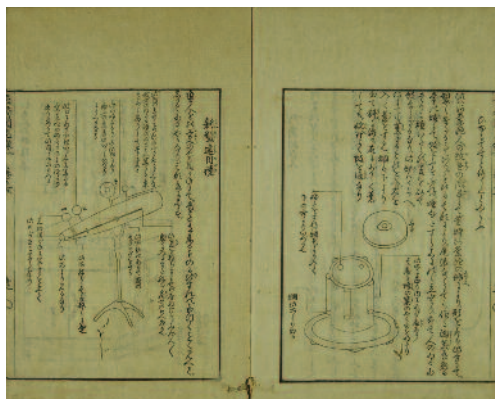
大五册 二五〇、〇〇〇

四、五頁參照



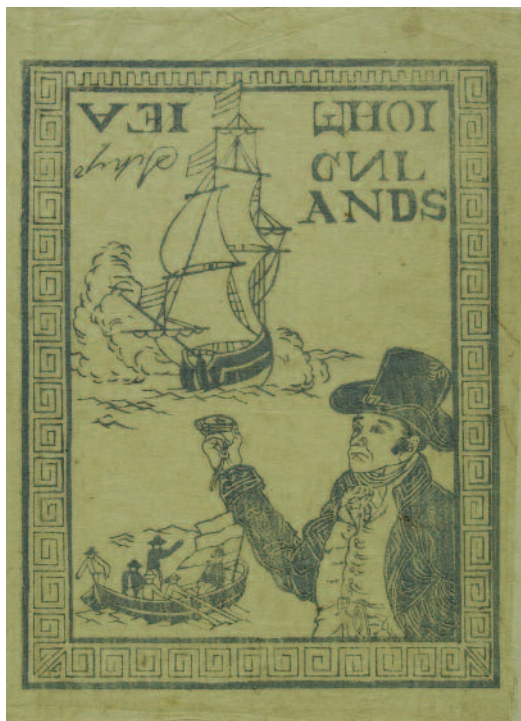






三 未詳刊本ノ袋

中本サイズ 江戸末期刊 一枚 一五、〇〇〇
―コンパスヲ持ツタ西洋人ニ和蘭船トバツテラヲ描イテ判讀不能ナ横文
字ガ記サレテイル珍奇ナ袋。



四 弧角小成

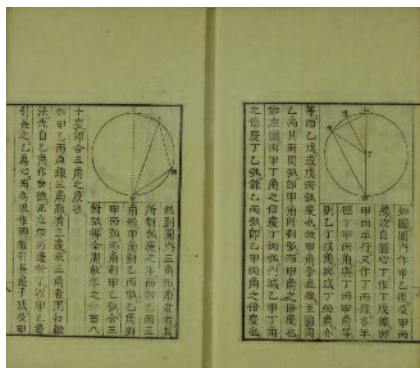
— 紀藩／惠川彌五郎編。山中篤之助校。阪本屋大二郎刊。惣郷氏舊藏本。

筭二分剥落

星舎藏梓

安政二夏刊

中一册 二〇、〇〇〇

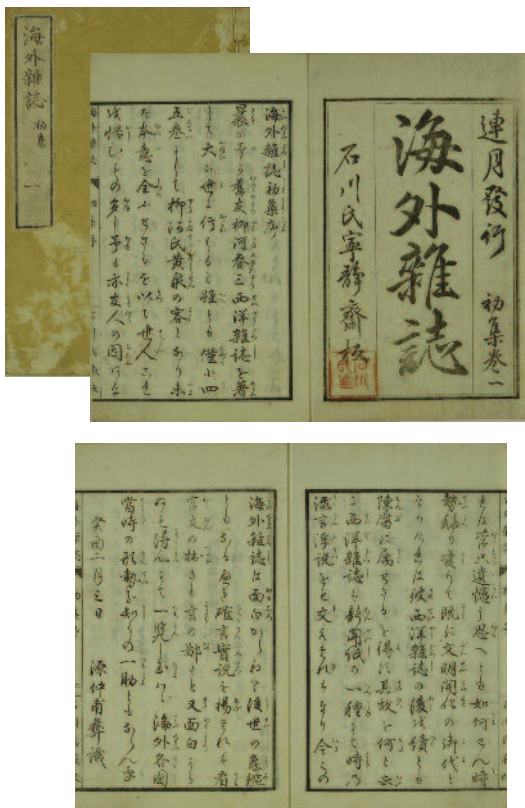


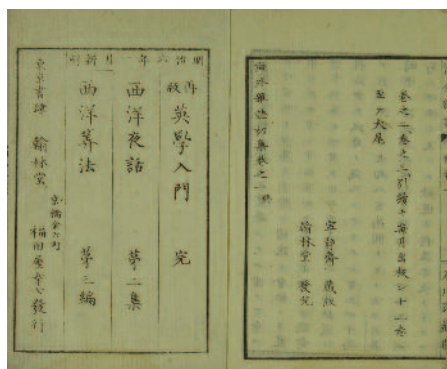
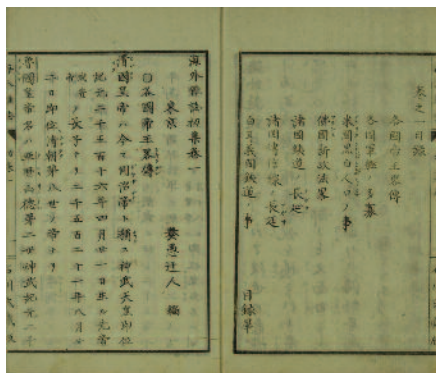
五 海外雜誌 初集卷一 簽 石川寧靜齋板

明 6 中一冊 五〇、〇〇〇

— 源仲甫彝序。翰林堂／福田屋幸七發行。

九頁參照





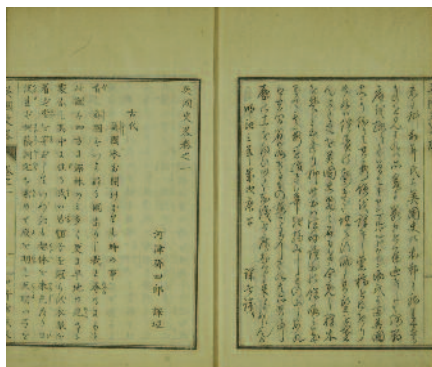
六 英國史略 全四卷

簽 河津孫四郎譯

明 3

半四冊 二五、〇〇〇

― 知新館藏梓。チャンブル及ハルドウィン著カラ抄譯
作樂戸癡鶯譯（三・四卷）。卷三ノ表紙傷ミ。



七 療馬方符

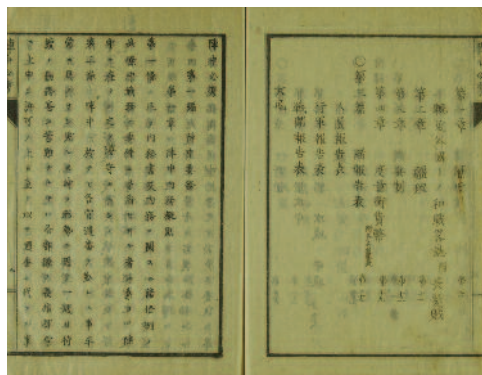
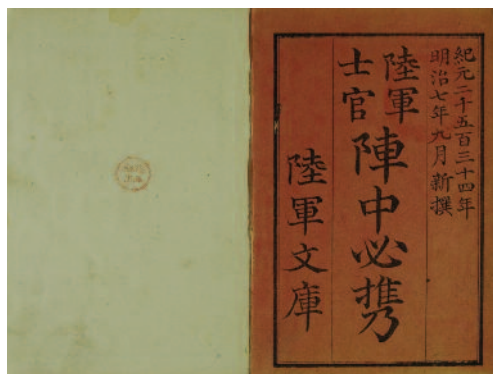
簽 美國／蘇篤涅安實氏著

明7 極小二冊 二〇、〇〇〇

― 深谷周三識。陸軍軍醫副／深谷周三鈔譯。陸軍二等軍醫／三浦煥校訂。



八
陸軍陣中必携
背革
雁皮紙
袋綴
陸軍文庫
明7
文庫判 三五、〇〇〇



九

佛國

參謀須知 軍術部
陸軍少將／曾我祐準序。

少虫

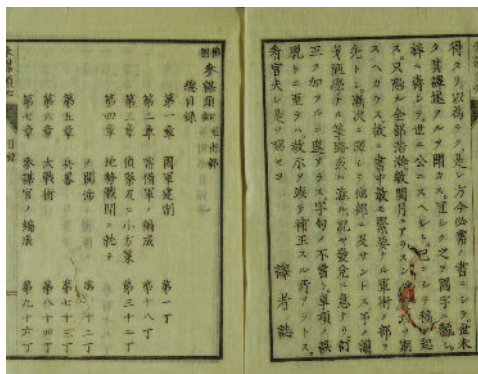
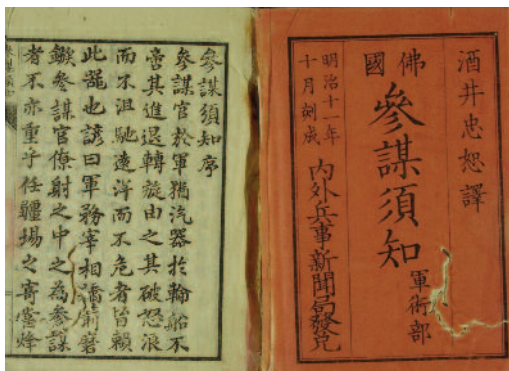
酒井忠恕譯

明11

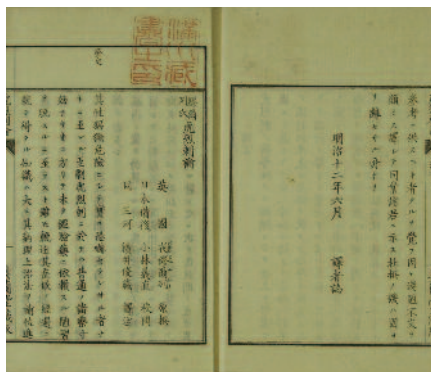
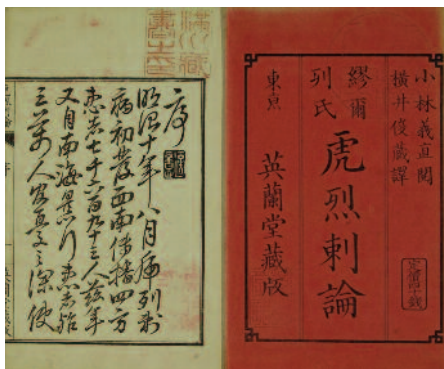
袖珍本

二五、〇〇〇

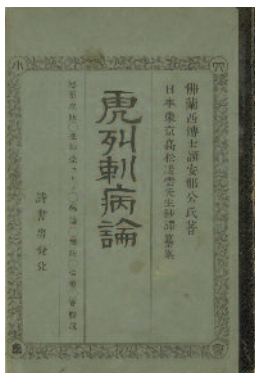
和紙袋綴整版一二五丁。



一〇 列氏虎烈刺論 簽欠 橫井俊藏譯
 | 小林義直閱
 英蘭堂藏版 明 12 中一冊 一五、〇〇〇



- | | | | | | | | |
|----|-----------------------------|-------|--------|--------|------|--------|-------|
| 二 | 虎列刺病論 | ポール表紙 | 高松凌雲譯編 | 明 12 | 四六判 | 一〇、〇〇〇 | |
| 二 | 佛蘭西／謨安那公著。片山秀亭序。松浦宏出版。 | 衛交合條例 | ポール表紙 | 赤塚錦三郎編 | 明 15 | 四六判 | 五、〇〇〇 |
| 一三 | 東京醫覺
日講紀聞
一名閨房秘書。駁々堂。 | 解剖篇一 | 長與專齋序 | 明 8 | 四六判 | 五、〇〇〇 | |



一四 英和字典
——吉田賢輔序。大槻磐溪跋。

背革装釘

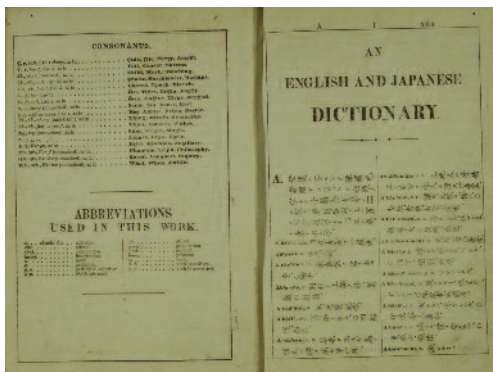
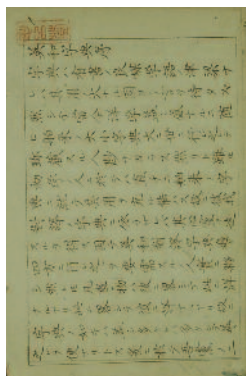
知新館社同譯藏版

明5

四六判

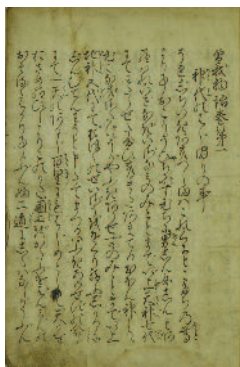
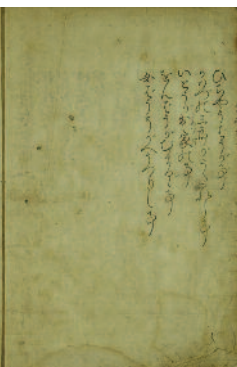
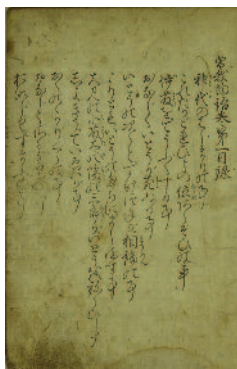
八五、〇〇〇

八頁參照



一五 曾我物語 全一二卷ノ内卷三ノ五欠 寛永四年六月刊 大九冊 八〇、〇〇〇

―洛陽三条寺町誓願寺前／安田十兵衛尉開板。原装書キ題簽。
古活字版二次グ寛永四年整版本。



一六 古 曆

原裝 題簽欠 寛永八年中刊

中横一冊 二、〇〇〇、〇〇〇

―著者不明。原装トオモワレル栗皮色表紙。表紙カラ三丁メマデ少破レ若干欠字有リ。本書ハ慶安元年ニ吉田光由ガ刊行シタ『古曆便覧』ノ自序ニ紹介サレタ傳説ノ刊本「古曆」。天文三年カラ寛永八年マデ九八年間ヲ記シタ曆。嘗テ反町弘文莊ノ古活字版目録ニ孤本トシテ元和四年版ガ掲載サレタ。本書ハソノ翻刻本ノ整版本デ寛永八年刊ト推定サレル。戦前、井本文庫ニ存在ノ記録ガアッタガ現在ハ本書ガ孤本デアロウ。寛永九年以降、正保四年マデ本紙トアマリ變ワラヌ紙デ手書キ増補サレル。シカシ下段ノ八卦ノ圖ハ印トシテ押捺サレテイル。一二・一三頁参照

1863
古

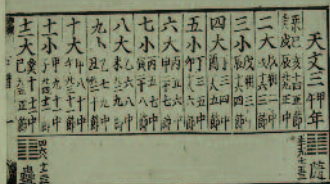
曆

元和四年刊
新田弘本
古活字版

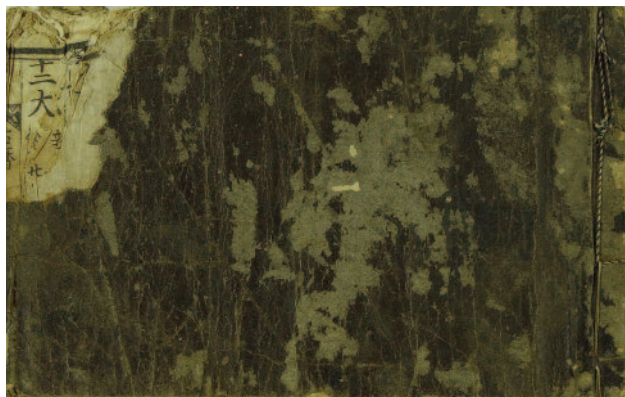
一冊 1140×900mm

横小本。縦一二、四、四、横二〇、三、横、印刷面縦九、二、横、七、一、横。四周双邊、行間有界十三行。版心は「古曆（丁數）。版面下三分の一ほどを割して、八卦の象を印刷して居る。紙數、第一葉よりはじめて、第四十三葉まで四十三枚。第四十三丁の裏は年記等なく、干支と八卦の象のみを刻。「古活字版の研究」未載の稀覯本。

天文三年から元和四年まで八十五年間の曆。上三分の二の部分には、月の大小・閏月・朔の干支・毎月の節中の日を示し、下三分の一ほどの間に、八卦の象を配置した曆で、曆の用と八卦易の用とを兼ねた書。

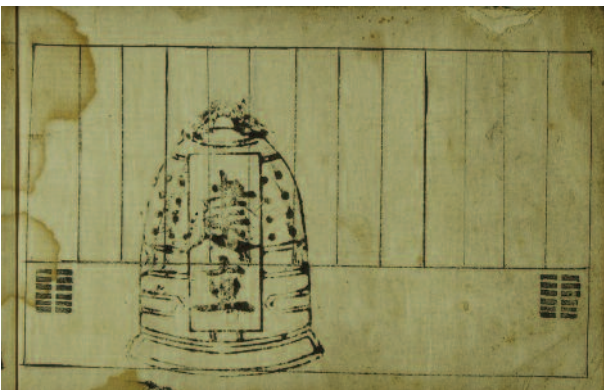


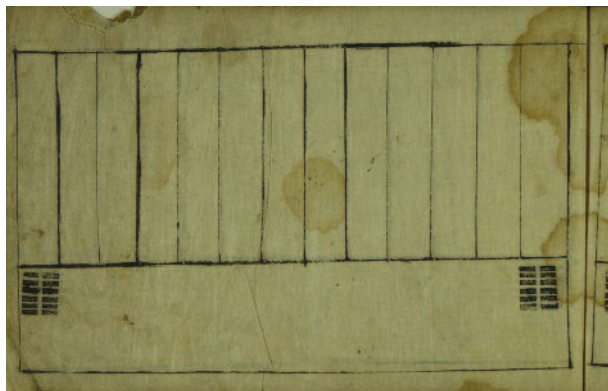
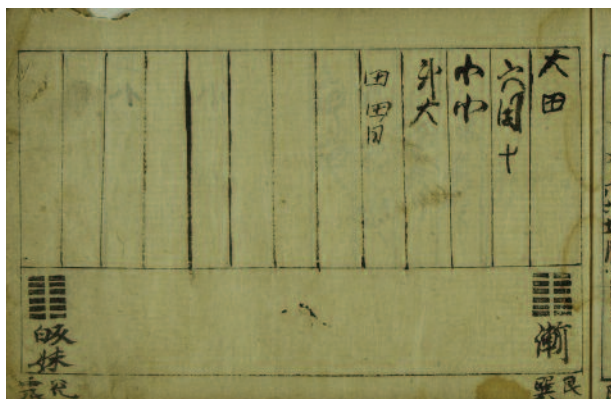
「弘文莊古活字版目録」昭和47年刊



天文三年甲午年															
三大	才小	十大	九小	八大	七小	六大	五小	四大	三小	二大	庚巳 庚戌 庚辰 庚申 庚子 庚午 庚戌 庚辰 庚申 庚子 庚午	庚巳 庚戌 庚辰 庚申 庚子 庚午 庚戌 庚辰 庚申 庚子 庚午	庚巳 庚戌 庚辰 庚申 庚子 庚午 庚戌 庚辰 庚申 庚子 庚午	庚巳 庚戌 庚辰 庚申 庚子 庚午 庚戌 庚辰 庚申 庚子 庚午	庚巳 庚戌 庚辰 庚申 庚子 庚午 庚戌 庚辰 庚申 庚子 庚午
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午	庚戌	庚辰	庚申	庚子	
庚巳	庚戌	庚辰	庚申	庚子	庚午										

<p>正保四丁亥</p>	<p>正大癸卯</p>	<p>二小癸卯</p>	<p>三大壬子</p>	<p>四小壬子</p>	<p>五大辛丑</p>	<p>六小辛丑</p>	<p>七小庚子</p>	<p>八小己巳</p>	<p>九小戊辰</p>	<p>十大戊辰</p>	<p>十一小戊辰</p>	<p>十二小戊辰</p>	<p>十三小戊辰</p>	<p>十四小戊辰</p>	<p>十五小戊辰</p>
<p>正保四丁亥</p>	<p>正大癸卯</p>	<p>二小癸卯</p>	<p>三大壬子</p>	<p>四小壬子</p>	<p>五大辛丑</p>	<p>六小辛丑</p>	<p>七小庚子</p>	<p>八小己巳</p>	<p>九小戊辰</p>	<p>十大戊辰</p>	<p>十一小戊辰</p>	<p>十二小戊辰</p>	<p>十三小戊辰</p>	<p>十四小戊辰</p>	<p>十五小戊辰</p>
<p>震</p>	<p>震</p>	<p>震</p>	<p>震</p>	<p>震</p>	<p>震</p>	<p>震</p>	<p>震</p>	<p>震</p>	<p>震</p>	<p>震</p>	<p>震</p>	<p>震</p>	<p>震</p>	<p>震</p>	<p>震</p>

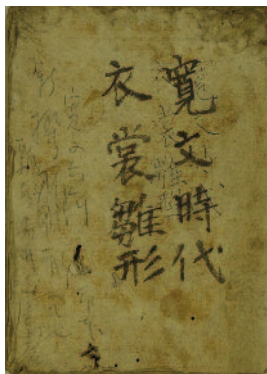




一七 新撰御ひいながた 欠丁改装本 寛文六年或イハ七年刊 小一帖 一五〇、〇〇〇

― 寛文六年版デアレバ山田市郎兵衛開板。『御ひいながた』ハ古來ヨリ極稀本トサレ寛文六年版ハ雛形本ノ專書トシテ日本最古ノ刊本トサレテイル。寛文七年版モ劣ラヌ極稀本デアッテ孰レモ同板ト認メラレ、序文ノ刊記ガ「刊時寛文六年七月吉日／山田市郎兵衛開板」カラ「寛文七丁年二月吉日」ト改刻サレル。原本ハ上下二卷ノ構成デ収載ノ圖ノ數ハ二〇〇種ト云ウ。本帖ハ匡郭ヲ殘シテ切り取ツタ版面ヲ三七種貼附シタモノ。殘念ナガラ末丁ノ圖ノ脇ニ刊記ヲ記シタ丁ハ無イ。大胆ナ構圖デアル「寛文模様」ノ一時期ヲ劃シタ最中ニ刊行サレタモノデソノ稀少性ト共ニコノ版面ノ存在ダケデモ貴重デアロウ。

一四・一五頁參照



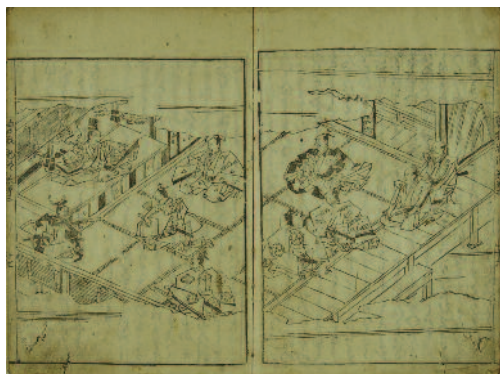




一八
新板繪入曾我物語 卷第三



簽
元祿頃刊 大二冊 一〇、〇〇〇



一九

つほのいしふみ

―内題「似せ者の判」。元禄一一年刊（國書）。

簽

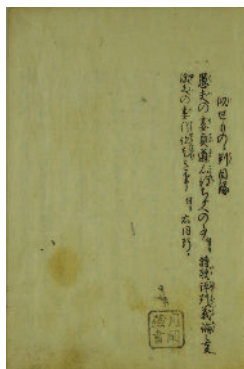
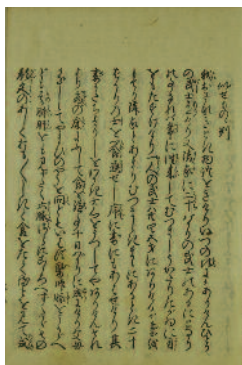
美本

無刊記

半二冊

八五、〇〇〇

一六・一七頁參照



二〇

女誠入女童子教 女筆
— 京書林／錢屋庄兵衛版。

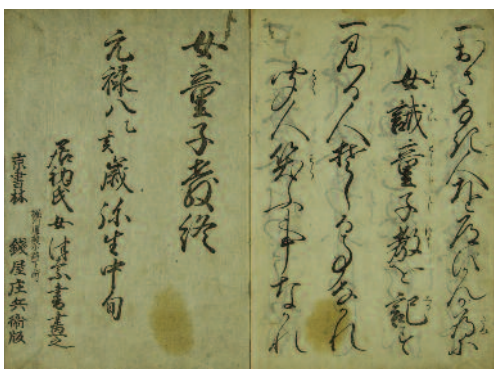
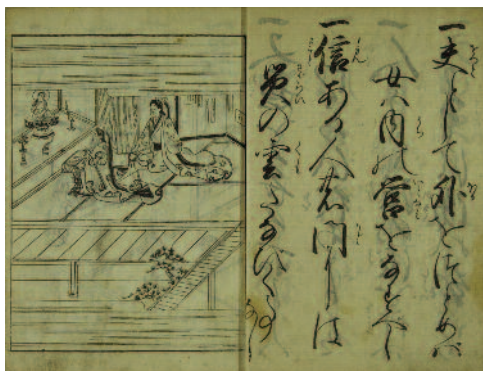
簞

元禄八乙亥歲弥生中旬刊

大一冊

四五、〇〇〇



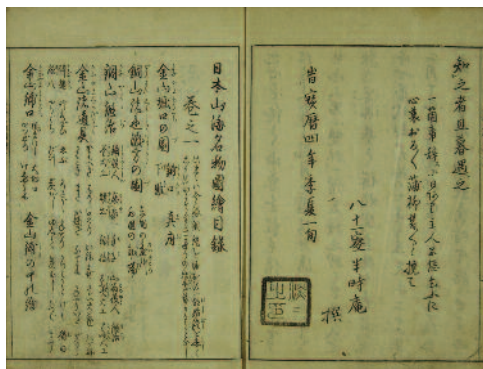


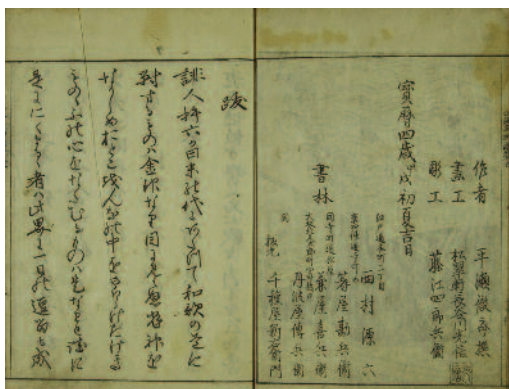
二二

日本山海名物圖會 五卷 合本 簽 實曆四年初夏刊 半一冊 一〇〇、〇〇〇
 平瀬徹齋撰。松翠軒長谷川光信画。藤江四郎兵衛彫工。赤松閣版。

一〇・一二頁參照

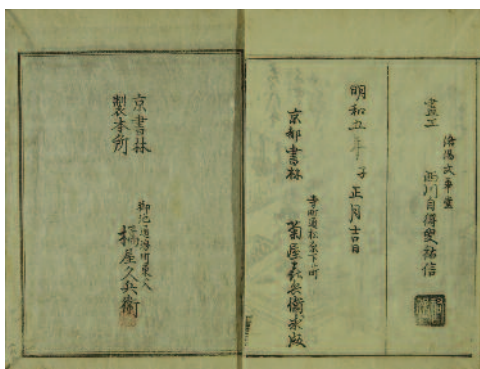






三三 福壽縁寶結 簽 西川祐信画 橘屋久兵衛 明和五刊 半二冊 二五、〇〇〇





二三 吾婦街道女敵討 三卷元合 原裝題簽欠 寛政一〇刊 中一册 五〇、〇〇〇

―黄表紙。「富士流劔術／荒井流柔術／東街道婦女報讐」。

式亭三馬作。歌川豊國画。





二四

怪物輿論

卷二、五（大尾）

簽

享和三年春三月刊

半四冊

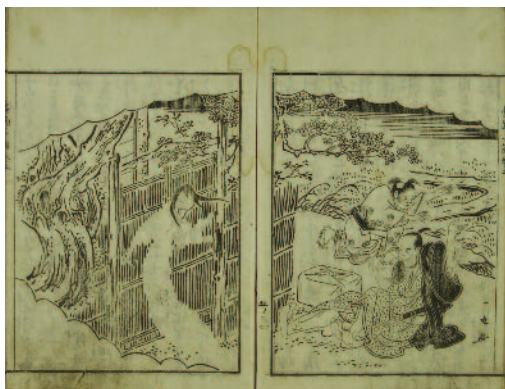
一五〇、〇〇〇

一十返舎一九作画。第一卷欠。僅力虫。

二四、二七頁參照







<p>恒物密論卷之五終</p> <p>現世無常の御時と云ふこと人乃天 年と愁とくも顔するは者なり乃乃 は客なりや何てわづらひて 覺悟をなさずあるは</p> <p>入世居世の御時と云ふこと人乃天 年と愁とくも顔するは者なり乃乃 は客なりや何てわづらひて 覺悟をなさずあるは</p>	<p>享和三年 壬辰三月發行</p> <p>書林</p> <p>大坂市 尾屋 松本 平物 江戸市 石 俊 佐 勘 同 野 江 町 四丁 民 夢田屋 利 吉 齋</p>
---	---

二六

忠孝道乃栞 前後編各上下卷揃 簽
浪速／思恩堂非得作。丹羽桃溪画。

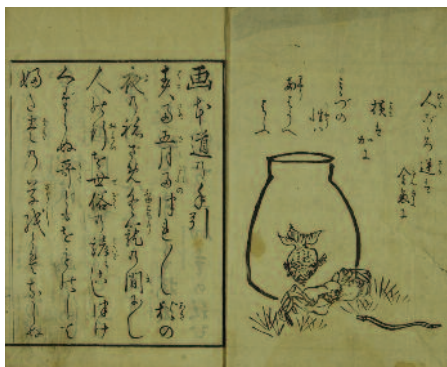
美本

文政六刊

半四册

四五、〇〇〇





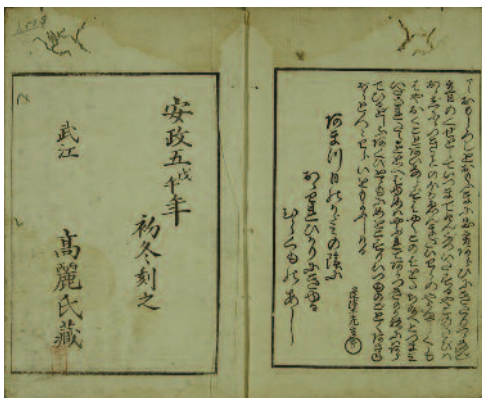
二七

末代掃寄草紙 上中下卷
— 道墮先生自序。武江／高麗氏藏。



簽 安政四年刊 大三冊 一五〇、〇〇〇
少々手擦レ。 三〇／三三頁参照





二八

狂歌萬花集 二册合本

芍藥亭大人撰 化成頃刊

半一册 三五、〇〇〇

―表紙ニ北溪画ト記スモ画ハナイ。画ヲ省イテ合本シタノデアロウ。

